

「事業名：公・民・学共創による持続可能まちづくりを通じた復興知人材育成」 令和4年度補助事業の実績・成果

東京大学 連携市町村：新地町

連携市町村との協定締結日：平成30年6月3日

現地拠点：相馬郡新地町駅前1丁目5番地 観海プラザA棟1階 新地アーバンデザインセンター（UDCしんち）

事業のポイント

福島県新地町において、地域エネルギーシナリオ作成、住民参加促進、地域状況を伝えるメディア作成や地域活動支援、それらを統合した持続可能まちづくりを、現地拠点UDCしんちを活用して公・民・学共創により実践する。これにより、復興の状況や内外の社会情勢の変化に順応し、創造的にまちづくりに貢献する復興知人材を育成する。

今年度の活動実績

- ・「地域活動デザインスタジオ」では、新地町に新たな風景をもたらすために地域住民と共創した「提案」を、新地町の多様な主体の協働のもとで2022年10月に社会実装した。JR新地駅では、この社会実装により構内に設置された図書コーナーが現在も活用されている。
- ・「新地高校特別授業」には2年生51名が継続的に参加し、外部講師によるまちづくりへの取り組みや海外情勢、人生論など、高校の外の世界に広がる多彩なテーマの授業を受講した。
- ・地域における次世代教育の一環として、2022年11月から尚英中学校において「尚英未来エネルギー倶楽部」が開始され、中学3年生7名がエネルギーに関する探求活動に取り組んだ。
- ・UDCしんちはこれらの活動の円滑な実施を支援するとともに、地域イベントへの出展やワークショップ、公開成果発表会を企画し、地域住民との交流と活動への理解促進を図った。

今年度の成果

- ・「環境システム学輪講」「環境システム学実地演習」の研究成果が、2023年2月2日の公開成果発表会で新地町関係者と共有された。うち、風力発電と営農型太陽光発電の潜在発電量の試算結果は、同年2月9日の日刊工業新聞の東日本版のトップ記事として報道された。
- ・記憶の街ワークショップモデルをデジタルアーカイブ化した「環境情報学実習」の取り組みは新地町で高く評価され、UDCしんちにおける住民への公開準備が協働で進められている。
- ・UDCしんちを活用したまちづくりの活動に参加する地域の人材は増加しており、新地町サイクリングマップの改訂版の実現や大学生滞在プログラムの創出等の成果をもたらしている。

